

## 長岡地区租税教育推進協議会長賞 優秀

### 暮らしと税

新潟県立長岡商業高等学校

二年 芝 千尋

夏休みももう終わりに近付き、税の作文をやっと書き始めた私の脳に、ふと夏休み前の出来事が頭をよぎった。

その日の放課後の帰宅途中、バスを降りて歩き出した私の目にそれは映った。五、六人もの人々が道路を工事している姿だった。暑い中、一生懸命工事している姿が印象的だった。その時は暑さにより、早く帰りたいという一心で何気無く渡った道路だったが、よく思い返してみると、それは税金によって補整されている、ということに気が付いた。道路だけではない。私達の普段通っている学校、図書館、交番、公園などの身近な公共の施設にも同じように関与している。勿論、これらの施設で働く人々もそうだ。他にも、税金は施設のみにとどまらず、公共間のサービスにも運用されている。安全や治安、安心、健康や生活など、関わり方は様々だが、色々なものがこうして挙げられる。私は、改めて税金は生活の支えになっているのだ、と実感した。

二〇十四年の四月一日、消費税が十七年振りに引き上げられた。五%から八%への引き上げだった。そしてまた再び二〇一七年の四月、さらに一〇パーセントへと引き上げられるという。以前の

私ならきつと猛反対していただろう。なぜなら、今まで普通に買っていたものの価格が今までと同じような値段で買えなくなってしまうからだ。それだけではない。きつと国民としても、大きな負担へと変わってゆく。「塵も積もれば山となる」ということわざがある。このことわざのように、小さな買い物での一〇%も度重ねられれば、莫大な金額へと変化する。一国民としてそのようなリスクは背負いたくはない、という人もいるだろう。しかし私は、完全にそうとは思えない。私達にも払った消費税の分、返ってくるものがあるからだ。この作文の最初に書いた通り、税金は様々なサービスへと形を変え、私達へと届く。形は違えど、こうしてしっかり国民へと返って来るものはあるのだ。

世界には、学校に行きたくても行けない人が大勢いる。病院に行くことが出来ない人も同じように大勢いる。私達がこうして今、平穏な日々を送ることが出来るのは、他ではない、税金のおかげだ。だからこそ、今もう一度、税金とよく向かい合うべきだと思う。